



# 路材協会報

## 路面標示材協会

東京都千代田区神田佐久間町2-13(深津ビル)  
〒101 Tel (03) 861-3656 (代表)

### 目次

新年に臨んで思うこと	会長 新美喜久雄	1
一年の計と交通安全祈願	副会長 真壁 昶	3
時事政・経メモから	小原 陽二	6
回転数を見る	山本 一志	8
賛助会員会社プロフィール②	株式会社トーケムプロダクツ	14
賛助会員会社プロフィール③	三井石油化学工業株式会社	16
協会会員名簿一覧		18
事務局便り		20
余滴		20



## 新年に臨んで思うこと

会長 新美 喜久雄

東欧の激変に始まり、後半は中東湾岸危機に揺れた昨年が過ぎて、新しく迎えた今年、1991年は、まさに政治・外交・経済の年ともいえましょう。そして、世

界の厳しい政治・経済環境は、否応無しに各国がそれ相応の対応をしなければ、その国そして国民は大変な不幸を背負うことになるでしょう。またこのことは、全く新しい21世紀をあと10年で迎える未知への期待はまず、この90年代を人間の叡知で着実に生きていかねばならぬことを意味しています。

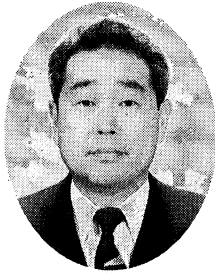
私どもが身近かな日々の仕事や生活を通してこの実感を得るためには、少くも、この業界を取巻く環境を適切な判断と行動で切り開いていく必要があります。

身近かな一例として、去年の死者数11,227人で表わされる不幸な交通事故の関係を、今年は少しでもその数が減少することを願って止みません。そのためには、例えば、原料、製品、施工の各段階でそれぞれが努力して、いわば、三位一体、或いは三人四脚とでも申しましょうか、よりよい連携で品質の向上をめざすと共に、お互いが繁栄できるように協調の理念に立って行動することを願わずにはいられません。

交通安全対策のための幅広い施策は政府レベルで、また各地方レベルで行われますが、私どもは交通安全対策事業の関係者として、まずは現有品の安定した品質の維持と供給、さらにはより高い機能を示す路面標示材料の社会導入をはかることをこの時期に早めねばなりません。各社が独自に研究・開発して実地に試験していくことは技術の競争から当然のことではありますが、或るレベルに達した段階では、それらの共通部分を探り、そしてまとめて、社会に寄与する方向をめざさねばならないと思います。交通安全という領域は、公共社会のために欠かせない近代必修の命題に取り組む素晴らしい分野です。ですから、私どもは路面標示材料の協会を組織しているわけですし、或る部分ごとに公共奉仕の精神をもって一つにまとまり、外部の必要な方面に訴えて、その理解と賛意を得るように努力して参りたく思います。

協会内外の皆様、どうぞ本年もよろしくお願い申し上げます。

(株)キクテック 代表取締役



## 一年の計と交通安全祈願

副会長 真壁 昶

平成3年の新春を迎え、20世紀もあと10年足らずとなりました。関係各位におかれましては、21世紀の幕明けに向けて、夢と希望を抱きつゝ、日夜発展のため研鑽・努力されておられる事と存じます。

それにしても90年代初頭の昨年は、スタートから波乱の連続でありました。

すなわち、ベルリンの壁が取り除かれ統一ドイツの誕生という歴史的スタートから、8月始めにはイラクのクウェート侵攻による世界経済の緊張と混乱、原油の高騰、さらには、日米構造協議の中での農業問題や山積みする諸懸案事項、ソ連のペレストロイカに伴う内部確執、また、国内での金利高・株価ダウン・地価変動……等々。

そしてそれを上廻る今回の中東湾岸戦争の勃発。もうこの辺は筆の執りようもありません。

一方、我々交通安全事業に携わるものにとって大きな関心事は、この3年間連続して交通事故死者数が年間で1万人を越した事ではないでしょうか。つまり、昭和63年 10,344人、平成元年 11,086人、平成2年 11,227人というのは、まさに「交通戦争」の一語に尽き、第2次交通戦争に突入したと言えましょう。

過去、諸先輩が幾度となくこのテーマを取上げ、データーを使った分析・解析・考察を行い問題提起をしていますが、何度取上げても語り足りない問題ではないでしょうか。過去15年間でも最悪な事態になっており、交通安全の一端を担う我が業界としても憂慮すべき問題であると思います。

最近の交通事故の特徴は、高令者・幼児者の比率が上がり、歩行者・自転車に集中し、週末から休日のしかも夜間に多く、社会生活が24時間休まず動いている中で、時と所を問わず突然に起きるからなおの事厄介であります。その意味では、自動車無くして社会生活が成り立たないモータリゼーション社会と言われる今日では、社会・経済活動の動向を踏まえた上で「安全」に関し、関係諸庁を始めとして「交通事故撲滅」のため、より効果的な対策・対応が望まれ、又最大の関心事と思うわけです。

これらを背景にして、平成3年を初年度としての第5次交通安全施策整備事業計画が策定され、安全あつ円滑・快適な道路交通環境の実現に向けて推進される

事になったと聞きます。計画の総事業費は1兆9千億円で、第10次道路整備5ヶ年計画と相まって、安全に掛ける経費は膨大となります。

施策の概要として、1. 歩行者・自転車の安全確保 2. 交差点・夜間事故防止 3. 駐車対策の推進 4. 道路交通情報の迅速かつ的確なシステムの確率 5. 事故分析システムの充実 6. その他 等々と多岐に亘り、それぞれのテーマ毎に整備・充実した推進がはかられる事になりますが、問題はキメ細かく、幅広く、そして内容の濃い整備を如何に行うかに係ると思います。例えば、歩行者・自転車の安全で快適な通行のために、①車道との分離。②さらに歩行者と自転車の分離。③高令者及び身障者の利用も配慮した段差の切下げ。④歩道用照明の整備、視認透導標の改良。⑤夜間視認性の高い標示材の活用。⑥自転車駐車場の整備による環境歩道の形成。⑦各層への安全教育。等沢山のテーマがありますし、これが自動車交通の確保、住環境の整備等迄に拓がると、この計画事業費だけではとても賄い切れないのではないのでしょうか。さらに事故を未然に防ぐためのセンサーの開発、事故が発生しても被害を最小限に止める柔構造車の開発等、自動車自体が改良・開発される事も望まれます。

いずれにしても、21世紀への展望も含め、今後の社会・経済の進捗及び、技術開発の進展とその動向を見据え、これら事業計画を実行推進し、より効果を高めるのも結局は我々自身ではないのでしょうか。すなわち、我々一人一人が交通安全のマナーを向上させるシステム、交通事故撲滅の風土作り、そして一人一人が安全に対する自覚を持たない限り、交通戦争の終結は実現しないでしょう。又、そのための行政には大いに金を掛けてほしいものです。

我が路材協も、関係業界に唯、材料を供給し、競争に明け暮れる企業の集団から、21世紀を見定めた共存・共栄する集合体として交通安全・事故撲滅への意識を高め、交通戦争に立ち向う具体的な姿勢を示すことが、真に貢献出来る道につながるのではないのでしょうか。

幸い、平成3年度運営方針の中にこの様な項目が盛り込まれる様、協会内で語合う土壌が出来つゝある事をその一員として、大変喜ばしく思う次第です。

『一年の計は元旦にあり』との格言がありますが、本年も材料・施工・工法の機能のより良い展開と、本来あるべき基点に立ち戻り、秩序ある協会として一致協力し、一層の成果が上がる様祈念したいと思います。

(神東塗料(株)東京特品部長)

## 交通死者 1 万人以上が続く

警察庁の集計によれば、昨年（1990年）1年間の全国の交通事故死者数は11,227人で、前年より141人（1.31%）多く、1975年以降の最悪となったことになる。

昨年の死者数を都道府県別にみると、多い順からは、①北海道715人②大阪571人③愛知540人④千葉508人⑤神奈川490人⑥東京483人⑦埼玉479人⑧兵庫469人⑨茨城450人⑩福岡411人の順となっている。

一方、少ない方では、⑫徳島96人⑬高知、長崎、山形93人⑭島根83人⑮鳥取71人の順である。

また、前年比の増減数では都道府県単位で、増加が23、減少が24と、ちょうど相半ばした結果となっており、減少率の大きいところでは、滋賀と神奈川が目立っている。

年間の交通事故死者数は、1975年の10,792人の後は、1万人台を割って8～9千人台で推移していたのであるが、1985年からの増加基調で1988年以降1万人台が続いているわけであり、もうこの辺りで増加しないことが願われているわけである。

1990年中の都道府県別  
交通事故死亡者数

（警察庁調べ、▼は減）

	90年の 死亡者	前年比 増減数
北海道	715	56
青森	136	▼7
岩手	160	23
宮城	166	▼10
秋田	102	2
山形	93	4
福島	237	▼17
茨城	483	▼5
栃木	450	▼12
群馬	293	▼23
埼玉	213	▼12
千葉	479	18
徳島	508	25
香川	490	▼75
高知	264	▼11
山形	119	2
山梨	233	26
長野	378	▼7
静岡	120	▼5
富山	109	▼1
石川	115	▼6
福井	272	▼25
岐阜	540	▼5
愛知	283	▼38
三重	134	▼41
滋賀	259	28
京都	571	52
大阪	469	▼11
兵庫	125	▼2
和歌山	117	▼8
鳥取	71	▼2
島根	83	5
岡山	253	35
広島	299	22
山口	197	14
徳島	96	5
香川	142	▼5
愛媛	147	▼20
高知	93	▼1
福岡	411	▼29
佐賀	106	▼7
長崎	93	0
熊本	163	6
大分	115	7
宮崎	103	16
鹿児島	122	▼11
沖縄	100	7
計	11,227	141

# 時事政・経メモから

小原陽二

## ◎湾岸戦争に突入

去る1月17日、湾岸危機は、ついに湾岸戦争へと突入した。国連決定によるイラク側の回答期限（1月15日NYタイム午前零時）から凡そ40時間後のことである。それまでに関係各国首脳や国連事務総長等々幾多の斡旋努力も傾けられたが、ついに戦争回避の実は結ばなかった。全く残念なことである。しかし、多くの意見が指摘する通り『和平の実現に絶対的な期限切れはない』今後ともイラク側ならびに多国籍側双方の深い理解と努力によって、一日も早い和平の実現が期されることを祈って止まない。

こゝ一週間ほどの、いわゆる緒戦段階の諸情報を見聞する限りでは、米空軍を主軸とする多国籍軍側の空からの猛攻が優勢のようであるが、イラク軍側も「必らず徹底的反撃をする。戦力は十分温存（確保）してある」と豪語している。と同時に、イスラエルやサウジに対しミサイル攻撃を加えつつある。そのほとんどは米軍の迎撃ミサイルに打ち砕かれて、大きな戦果にはなっていないようであるが、ともあれ、戦争が長期化すれば、それだけ損害（とりわけ人命損害）は大きくなる。大空襲戦の次に展開するのは地上戦である。これは人命の大損耗に通ずるものである。なんとしても避けねばならぬことだ。

戦争も政治行動の一側面であると思うが、如何なる理由があるにせよ、「戦争を選択する政治は、最低の政治である」といっても過言ではない。政治と経済とが密接な関係にあるのはいうまでもない。しかし、戦争という無意味な大消耗（ならびに生産停滞）が経済、延いては市民生活に及ぼす不幸は絶大なものである。

今次、湾岸戦争につき一日も早い和平実現を重ねて切願したい。

## ◎諸相場の意外な動き

戦争が始まれば、急騰するとみられていた原油相場やドル相場が逆に下落、軟調を示した。

一方、暴落が予想されていた株式相場は予想に反した堅調に推移している。戦争材料ほど読みの難かしいものはないといわれるが、まさにそうだ。今回の場合、緒戦における多国籍軍側の優勢な状況展開から「原油供給に支障は生じない」「戦闘が長期化してもイラク側の戦力からみて石油積み出し施設や油田が大きく破壊される恐れは少ない」といった楽観論が広まった。念のため、それをおさらいすると次のようだ。「戦争になれば1バレル40ドルは間違いない。ひょっとしたら60ドルまで上がるかも……」という予想は日本だけでなく、海外でも圧倒的だった。戦争突入の報を入れて東京市場の原油相場は一時的にはハネ上がったがそれは2時間で終わった。緒戦の相次ぐ朗報で「戦争は短期で終結する」との読みから売りが売りを呼ぶ状況に一変した。1日で1バレル10ドル前後安（率にして30%弱）という記録的な値下がりを示した（1月17日）。ところが、こうした原油相場の急落は為替相場主導であり、また東京市場主導であったとみられてい

る。緒戦の朗報を真先に反応したのは外為市場である。当初円売り・ドル買いでフタを明けたものが、一転して円買いに転換した。ために東京市場では一時1ドル＝131円95銭と1ヵ月ぶりの安値に陥った。またこうした空気は忽ち株式市場に伝わり、株価の急上昇（1月17日の東証、日経平均は前日比1,005円高、翌18日も361円高）となり、全く意想外の堅調を示した。さらに、この動きが原油トレーダーをも強く刺激し、原油売りに駆り立てるといった循環的な動きに連動したのである。

しかしながら、こうした動きを冷静に考えると、こゝ週日の経過にみられた楽観的判断には大いに警戒すべきものがある。つまり、背景にある基盤材料が本来極めて予測困難な“戦争”であることを忘れてはならぬからである。今後の状況次第では原油高もありえよう。原油高は経済成長にとってマイナス要因であることはいままでもない。戦争の長期化、深刻化は世界的不況に連がる不安要因である。

1月22日バーレン発米軍情報によると、『クウェート領内に展開するイラン軍はクウェート南部のワフラ油田を破壊した模様である。同油田の油井数本と貯蔵タンクが炎上、黒煙を上げている』という。同油田はイラク軍と多国籍軍との陸上兵力が向き合う最前線にある。多国籍軍の前進を阻むためか、戦線後退のためにクウェートの経済基盤の破壊を狙ったものかその意図は不明のようだ。“窮鼠猫を噛む”の喩えもある。何が起るか全く予断を許さぬのが戦争である。慎重の上にも慎重を期したい。

#### ◎捕虜を空爆への盾に（1月21日アンマン発、朝日）

イラク軍スポークスマンの話として、イラクを攻撃して捕虜となった多国籍軍機のパイロットを、多国籍軍から攻撃目標となっている科学研究施設や経済施設等に分散収容する措置が決まったと伝えた。捕虜の数は20人を超えており、この措置は21日午前零時から実施されるという。今回イラク側が明らかにした決定は、昨年外国人人質を“人間の盾”として重要施設に置いたように、捕虜となったパイロットを事実上の人質として、多国籍軍側の攻撃をけん制する狙いがあるのは確実とみられている。すでに米務省はワシントン駐在のイラク代理大使に対し、米国人捕虜の取り扱いにジュネーブ条約違反の疑いがあるとして抗議しているという。

#### ◎ソ連の対共和国軍事行動

湾岸戦争の影にかくれてか、報道面で余り大きく扱われなかったが、ソ連バルト三国のうちリトアニアに続き、ラトビア共和国でもソ連軍の武力行使が実現化した。この軍事行動がゴルバチョフ大統領の指令によるものか、共和国駐留軍の独自判断によるものかは不明という。何れにせよ内外の民主勢力からの批判は避けられないことだ。と同時に、ソ連軍による相次ぐ流血事件の発生は当然ゴ大統領の責任問題にも絡んでくるとみられる。ゴ大統領の金看板ペレストロイカは絶望の他はなくなったのか。またソ連国内の経済再建はどうなるのか。1月21日に終わったNY、G7会議は、冷やかな雰囲気うちに閉幕したが、一連のソ連支援問題は事実上棚上げされた格好となった。湾岸問題の今後とも考え合わせると、ソ連国内の正常化こそは関係諸国にとって強く望まれるところだ。

（1月24日記、路材協・客員）

# 回 転 数 を 見 る

山 本 一 志

J I S K 5665における路面標示用塗料の品質規定の中で、3種（溶融）には溶剤不溶物の項目はないが、1種（常温）、2種（加熱）では現在なお存続されており、溶剤不溶物の試験をする上で必須の機器として遠心分離機がある。この機器は誠に便利なもので、固液分離には欠かせない簡便さから多用されている。最近では機器も発展を遂げて、回転数もデジタルで読み取り出来るようになってきている。一方古いタイプの遠心分離機は、液面でおおよその回転数を見る形式のもので、非常に不便なものである。そこで回転数をデジタルで表示でき、しかも非接触式の回転数計の試作してみたので、その内容を紹介してみたい。

実は、かかる分野の記事が路材協会報にふさわしいかどうか疑問を持ちながらも、昨今のエレクトロニクス化の一端に挑戦して見るのも有益ではないだろうか、また、非接触式ということから遠心分離機に限らず、回転数を見たい時に役に立つだろうと考えて取りかかってみたものである。

必要な回路は、センサー部、タイマー部、カウンタ回路、表示回路で、更に必要ならば各種機器の出力回路を接続すればオートメパーツとして有効である。

- ① まずセンサーの選択である。非接触式という要望から光センサーの使用を考える。光透過型、拡散反射型、再帰反射型があるが、扱いの容易な拡散反射型の光センサーであるOMRONのE3S-DS10E4を利用する。これは、拡散反射率の差を利用しているもので、白い物を感知してH（ON）、黒い物だとL（OFF）を出力する。従って、回転体（回転軸）に白い紙を貼り付けておけば、白い部分を感知してHを出力してくれることになる。信号を取り出す回路例を図-1に示した。
- ② 続いてタイマー回路の設計である。555というICタイマーを利用する。これは、外付けのコンデンサと抵抗の組合わせで時間を変えられるという便利なものであり、今回のような用途には十分使える程度の精度を持っている。回路例は図-2のようになる。時間調整は可変抵抗で行う。
- ③ カウンタ回路の設計。回転数のカウントの原理を図-3のように考える。即ちタイマ555のH（Vccを5vとすると、5vをH、0vをLと表現する。）と光センサーからのパルスとのAND（論理和）を取ると、出力側にはt時間にn個のパルスが現れ、これをカウントすれば良いことになる。ここで問題となるのは、毎分3000~4000回転しているのを1分間カウントし続けているのかという事で、これでは正確ではあるが待ち時間が長くて回転数を調整するのに多大な時間を必要とし実用的でない。回転数は有効数字2桁もあれば十分であ



るから、次のように考えて時間を短縮する。

即ち、3600rpmの場合 360回転した時に 3600rpmと表示することにする。3600rpmは1秒に換算すると60回転、従って $60 \times 6 = 360$ だから6秒間カウントすれば良い。しかし、6秒でも長いとすれば、1回転に6パルス発信するように工夫して、1秒間で60回転した時、パルスはその6倍の360パルスを出させる。これにより1秒間で360と表示出来る。勿論1位のところを0と表示すれば、トータルで3600と表示できる。これで2桁の有効数字が確保できることになる。というわけで10進カウンタが3個必要となる。カウンタ用ICには4518を用いる。このICは、1個で2個分の働きがあるのでこれを2個用意する。

- ④ 表示回路。LED（数字表示器）を4個用いる。LEDドライバ（LED駆動用IC）には4511を用いる。

これでほぼ設計は終わりだが、このままではLEDが高速で回転数を表示するため、人間の目ではとても見ることが出来ない。そこで、タイマ555L→Hのタイミングでカウンタ4518のクリアピンに1パルスを送ってカウンタをリセットさせ、又タイマ555のH→Lのタイミングでドライバ4511のラッチピンにパルスを送って回転数をラッチ（保持）させることにより、1秒間に1回ずつ回転数が更新されることになる。

カウンタ、ドライバ表示回路例を図-4に示す。いずれも簡略化して書いてあるので、実際には各ICの特性表を参照して、Vcc（5v）あるいはGND（0v）等のピンの結線をしなければならない。前述したリセット、ラッチ回路例を図-5に示した。

- ⑤ タイマーの調整。

正確なパルスジェネレータ（周波数発生器）より、例えば500HzをLS00の1ピンに入力させて、表示が500になるように可変抵抗で調整すると1秒タイマとなる。

使用パーツが手持ちの物を利用したので、TTL（汎用IC）とC-MOS（低消費電力の論理素子IC）の混在でごちゃごちゃしたり、正論理負論理入り乱れて思想の統一を欠く回路で、見る人を困惑させるものとなってしまったが、暇をみての設計の継ぎ合わせでころころと気が変わると、素人の考えということでお許し願いたい。

以上回路図通りにハンダ付けを行い、試運転してみたところ無事作動した。以上のような回路は基本的なものの組み合わせであり、いろいろと利用価値があり、機会があれば他の応用分野にも取り組んでみたいと考えている。

参考文献：TTL IC 規格表

CQ出版社

C-MOS IC 規格表

CQ出版社

（大崎工業(株)路材部次長・路材協技術委員）

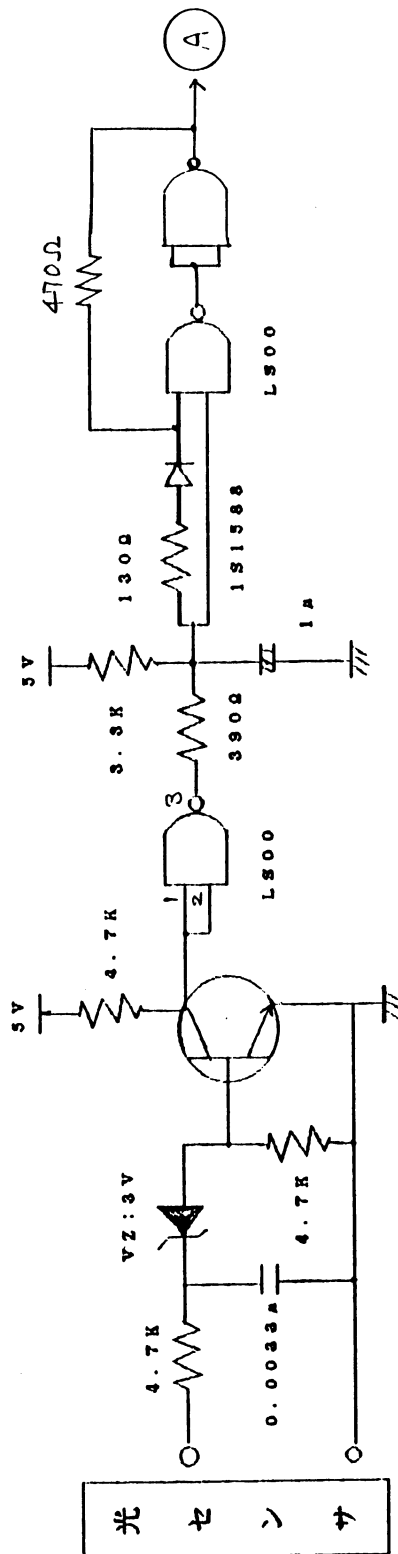


図 - 1 センサーの回路例

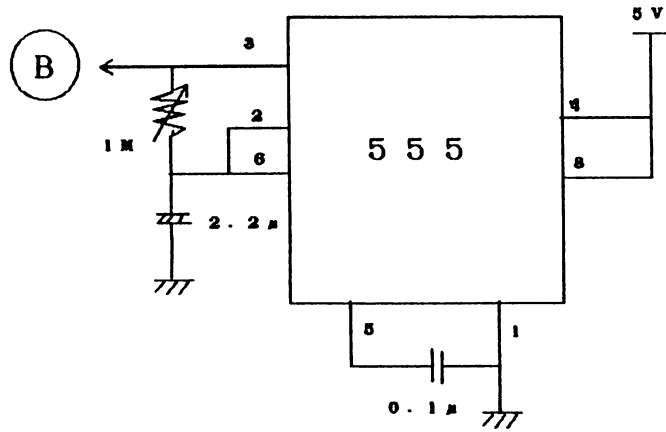


図-2 タイマーの回路例

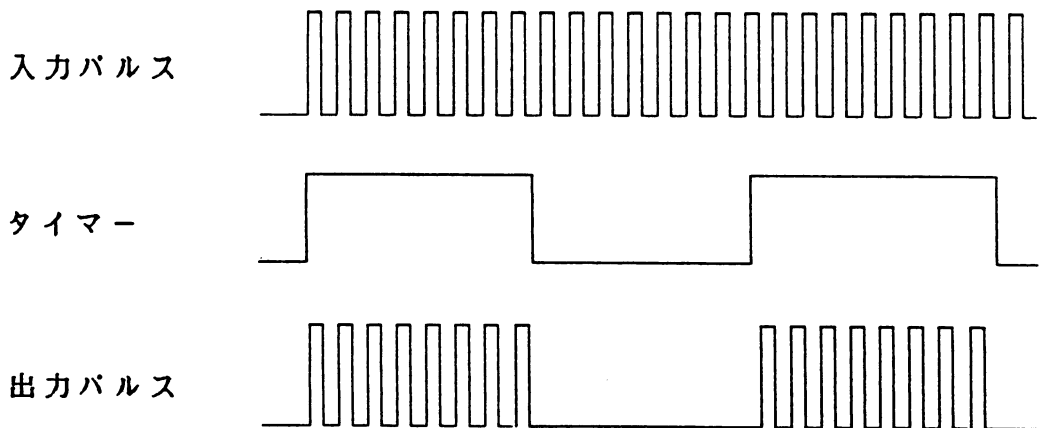


図-3 回転数のカウント原理

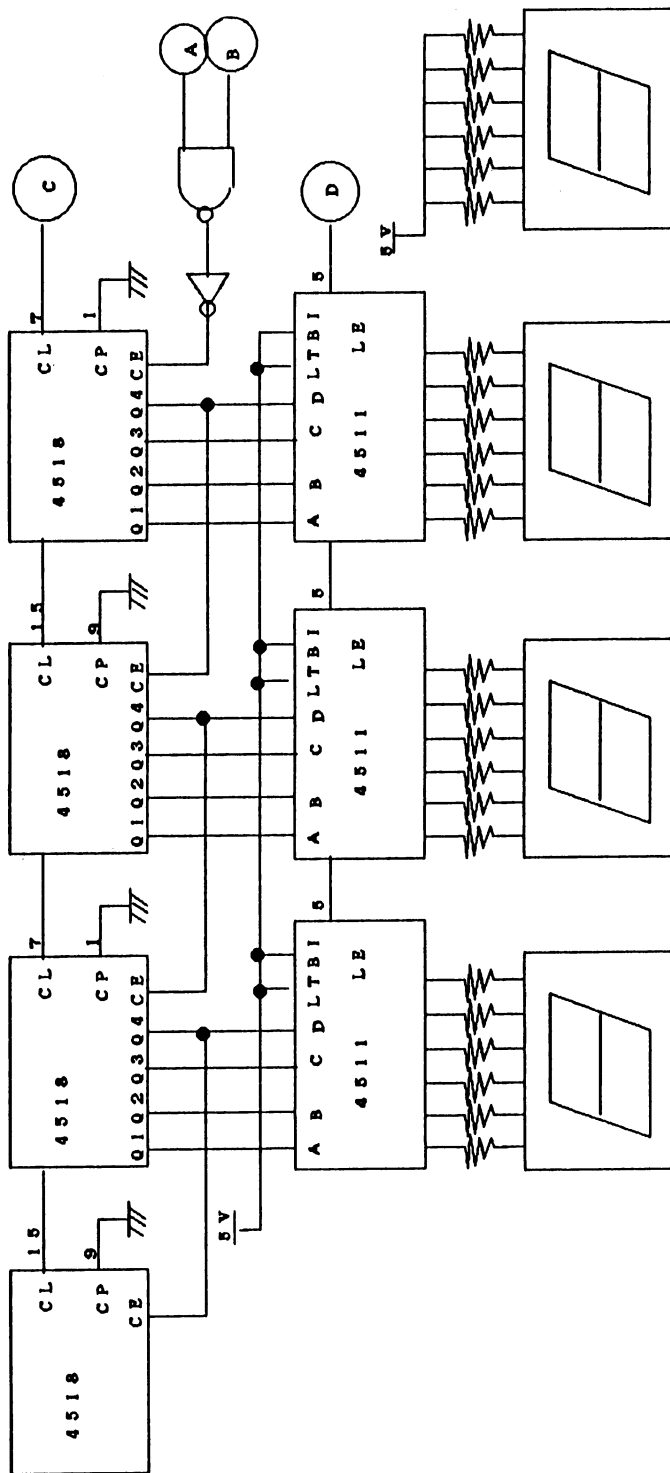


図 - 4 カウンタ、ドライバ表示回路例

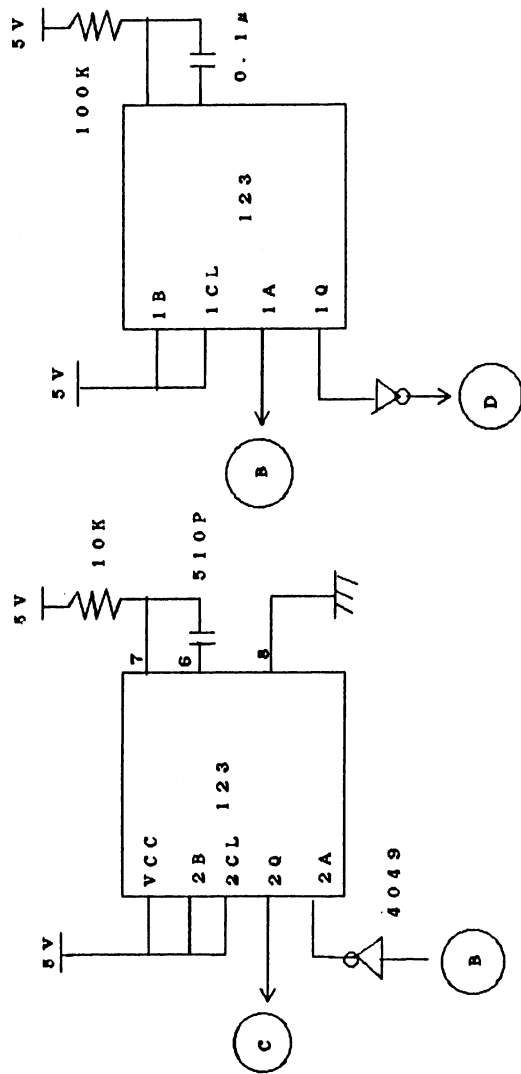


図 - 5 カウンタのリセット回路例

## 賛助会員会社プロフィール②

### (株)トーケムプロダクツ

#### 〔会社の概要〕

設 立	平成元年10月1日
資 本 金	10億円
年 商	150億円
会社代表者	取締役社長 酒井 和夫
従業員数	300名
本 社	東京都千代田区岩本町3丁目8番16号（東誠ビルNo.11）
事 業 所	秋田市茨島3-1-6
支 店	大阪市中央区安土町1-5-8（高橋ビル）
事 業 内 容	酸化チタン・フッ素化成品の製造販売

#### 沿革と現況

「株式会社トーケムプロダクツ」は平成元年10月1日に、酸化チタン専門メーカーの「東北化学株式会社」とフッ素化合物の「新秋田化成株式会社」が合併した新しい化学会社です。

皆様にはお馴染みの東北化学は、昭和45年に白色顔料の二酸化チタン製造メーカーとしてスタートしましたが、昨年春には、旺盛なる需要に対応すべくロータリーキルンを含む一系列増設を行ない、皆様のご要望に十分お応え出来るメーカーへと変身致しました。

商標“DIAWHITE®”シリーズのうちTCA-888・ASDは、特に路面標示材協会の皆様には幅広いご愛顧を頂いており、その販売量の7割が溶融用としての用途となっております。

この他にも各種アナタース型、ルチル型商品をご用意致しておりますが、いずれも秋田の清酒醸造には欠かせない良質な水にて丁寧に仕上げられております。

廃棄物は事業所から比較的近い地に、地域の皆様のご理解も頂き、広大な投棄場を形成し埋め立てております。又、秋田が地の利を有す最大の点は、原料としての硫酸確保の問題でございます。隣接する三菱マテリアル（旧、三菱金属）秋田製錬所より、ガスをパイプ受け入れ出来る好条件が秋田地区にはそろっております。一見、秋田は遠隔地と皆様には写るでしょうが、東北自動車道により晩出て朝には納入が可能という地になりました。

一方、新秋田化成はと申しますと、昭和57年に設立され、フッ酸・稀フッ酸をベースに、主に無機フッ素化合物の製造・販売から、さらには有機フッ素化合物へと、新たな分野への展開を行ない、事業の拡大をはかってまいりました。

フッ素化合物には、その特異な用途面・機能性において無限の可能性を秘めております。

フッ化アルミはアルミニウム製錬時の融剤として使用されます。最近の自動車車体軽量化に伴ない、アルミの需要が増大することからも期待の商品です。

フッ酸・稀フッ酸は、電球・ブラウン管のツヤ消し、ステンレス・スチールの酸洗や、エレクトロニクス工業におけるシリコン半導体表面のエッチングとして使用されております。

フッ酸と有機化合物を電解槽にて反応させて造る電解フッ素化製品群は、商標“エフトップ®”の名前ですでにご存じの方も多と思われるます。特に、表面張力低下能・湿潤・透過性等、優れた機能を有した界面活性剤。そして、ICパッケージのリークテスト液としてのイナートリキッドが広く活躍しております。

この他にも、今後様々な用途面への展開が期待され、しかも医薬・農薬・染料の中間体として一部出荷されている含フッ素芳香族化合物、金属の表面処理・電解メッキ用としての無機フッ素化合物と、数多くの商品を用意致しております。

以上の様に、「トーケムプロダクツ」は未だ大変若い会社ではありますが、「マイクロの技術でマクロの夢を」を合言葉に、皆様の多様化するニーズにお応えしていく所存でございます。

東京・大阪には営業を配しておりますので、皆様の益々のご要望をお待ち致しております。



## 三井石油化学工業株式会社

### 〔会社の概要〕

設 立	昭和30年7月
資 本 金	318.3億円（平成2年3月31日現在）
年 商	2,975億円
会社代表者	取締役社長 竹林 省吾
従業員数	4,350名
本 社	東京都千代田区霞が関3丁目2番5号（霞が関ビル）
事 業 所	工 場 岩国大竹、千葉 研 究 所 岩国・大竹地区、千葉地区、袖ヶ浦地区 支店・営業所 大阪、名古屋、福岡、札幌、広島 海 外 法 人 米国、欧州
事業内容	石油化学工業製品の製造・販売を中心に新規事業を展開中。

### 沿革と現況

昭和30年我が国初の総合石油化学会社として三井系8社によって設立され、昭和33年に山口県岩国地区でポリエチレン・EO・EG・フェノール等の生産を始めました。

その後、需要の伸長に対処するべく、昭和37年に広島県大竹地区にも拡大して岩国・大竹コンビナートの中核を形成し、昭和42年には主力製品の生産拠点として千葉県市原地区に新工場を建設しました。

また第1次、第2次のオイルショックによる石油化学の冬の時代の中で構造改善を果たすべく再編成に着手しました。即ち、千葉工場は基礎化学品、岩国大竹工場は特殊ポリマー、精密化学品等のスペシャリティ分野の基地とすると共に新たに愛知県市原地区にも工場用地を取得して、従来の石油化学の枠を超えるものも含める多角化への道を歩み出し、最終的には総合化学企業を目指しています。

当社の特色は石油化学分野で早くから培った基礎的研究の成果として研究開発を大事に育てて来たことと言えますが、昭和63年千葉県袖ヶ浦町にエレクトロニクス用新素材等の先端技術の発信基地として「新技術開発センター」を新設し、現在では汎用からハイテクに至る各ニーズに対応するため7研究所/研究者1,000余人の態勢を整えています。



そして経営長期ビジョンに基づき、西暦2000年には売上高 5,000億円、事業利益 500億円、人員 5,000人以下の目標を掲げ、その実現のためにCI活動も導入し「進化学」をキーワードとする全社員の意識革新を図りつつ達成へ向けて努力致しております。

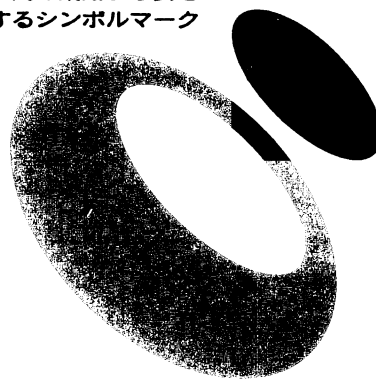
因みに、新しく設定した当社のシンボルマークを示します。

### 道路塗料分野の展開

当社は、昭和36年世界で最初にC<sub>9</sub>系石油樹脂を企業化し、続いてC<sub>9</sub>系石油樹脂メーカーの草分けとして昭和46年より生産を開始するとともに、逸早く道路塗料分野に展開すべく、銘柄開発及び応用技術の検討に着手すると共に供給体制を整え納入を開始致しました。その結果、広範なお客様にご使用戴き現在に至っております。

又、技術サービス体制も完備し、各種お問い合わせや研究開発のご相談に応じる傍ら、バインダーの将来のニーズに適する品質を造り上げるべく励んでおりますので、お客様各位よりのご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

未来に向け飛翔する姿を  
象徴するシンボルマーク



# 三井石化

### 「道路」に関する商品例

(商品名)	(一般名)	(用途)
ハイレツ	脂肪族系石油樹脂	路面標示用塗料
ハイワックス	低分子量ポリエチレン	〃
EPOMIK	エポキシ樹脂	道路・建築用接着剤
ウルトゼックス、ミラソン	L-LDPE、LDPE	各種粉体包装袋
ポーブライト、タニカロン	フラットセーン (PP)	土のう袋
ネトロン	プラスチックネット	土木用シート、暗渠排水管
テンサー	〃	軟弱地盤表層処理
タフネル土木マットU型	不織布製土木用マット	盛土安定、トンネル排水

## 路面標示材協会 会員名簿 (五十音順)

会 員 名	主 な 所 在 地	同 左 電 話
アトム化学塗料㈱	東京都(以下略す)板橋区舟渡3-9-2	03(3960)3111
大崎工業㈱	堺市上89番地 (東京)大田区本羽田3-24-9	0722(72)1453 03(3743)3004
関西ペイント㈱	大阪市中央区伏見町4-3-6 (東京)品川区東大井5-24-15	06(203)5531 03(3472)3111
株式会社	名古屋市南区加福本通1-26 (東京)葛飾区青戸8-2-18	052(611)0680 03(3690)1501
湘南化成㈱	横浜市戸塚区上矢部町3537-8	045(812)7253
信号器材㈱	川崎市中原区市ノ坪160	044(411)2191
神東塗料㈱	尼崎市南塚口町6-10-23 (東京)中央区八重洲1-7-20(八重洲口会館)	06(429)9865 03(3281)3301
積水樹脂㈱	大阪市北区西天満2-4-4(堂島関電ビル) (東京)中央区八丁堀2-23-1(エンバイヤビル)	06(365)2111 03(3553)3271
セイトー㈱	静岡市下川原3555番地	0542(58)5561
大日本インキ 化学工業㈱	中央区日本橋3-7-20(ディックビル)	03(3272)4511
太平洋塗料㈱	大田区東糞谷1-18-15	03(3745)0111
東亜ペイント㈱	大阪市北区堂島浜2-1-29(古河ビル) (東京)中央区日本橋室町2-8(古河ビル)	06(344)1371 03(3279)6441
日本ペイント㈱	大阪市福島区福島6-8-10 (東京)品川区南品川4-1-15	06(458)1111 03(3740)1123
日本ポリエステル㈱	大阪市北区芝田2-8-33(八谷ビル) (東京)港区新橋3-15-8(精工ビル)	06(372)7805 03(3435)8760
日立化成工業㈱	新宿区西新宿2-1-1(新宿三井ビル)	03(3346)3111
富国合成塗料㈱	神戸市兵庫区永沢町3-7-19	078(575)6600
宮川興業㈱	広島市中区国泰寺町2-2-11	082(244)6811
レーンマーク工業㈱	広島市安佐北区安佐町大字飯室字森城6864	082(835)2511

## (記事のお詫びと訂正)

平成2.12.5付路材協会報70号の巻頭文「当業界の人手不足問題に思う」における内容について不適切な部分があり、多くの方にご迷惑をおかけいたしましたことを改めてお詫び申し上げます。なお、その事情と訂正を以下のとおり申し述べます。

1. 本題目の意図するところは、標示材製造並びに標示施工関係で人手不足が問題化しており、次第に苦しい経営への影響が迫りつつあることの訴えと、長年続いている生産（製造や施工）の季節変動の悩みが少しでも減らないものかとの思いをアピールせんとしたものであります。
2. 執筆当時には東北、北海道関係のことが話題に上がっていたので、自走式施工を念頭に合理化の記事を考えましたが、その表現に重大な錯誤を生じ、併せて編集時のチェック洩れにより施工関連の誤った諸元数字表現のまゝ会報発行となり、非常な誤解を生じる種を作り出したことになりました。
3. 従って、会報記事3頁の4～5行目は『日本では、自走式の場合、1日4km位を目途としており、断然多いと思います。』のように訂正をさせていただきます。

なお、施工の編成人員や延長距離にかかる数字は、記事展開のために、仮定の表現として出したものでありますが、これも大変誤解を招くことになりかねませんので、あくまでもこの辺の諸元数字については、(社)全国道路標識標示業協会の示されるものに據って現状をみていただきたいと思えます。

以上のごとくであります。今後は、施工関係その他で会報記事とする場合などには、関係先への確認や公表の諸資料にもとづき、できるだけ誤りのないよう努めるとともに、会報の編集にもいろいろな知恵を集めたものとしていく考えです。何分ともよろしくお願い申し上げます。

## 事務局便り

### 1. 委員の変更（平成3年1月）

○積水樹脂(株)の技術委員は、業務の都合上、中根三郎氏から土浦工場建設資材製造課長忠本正志氏に変更されました。

○湘南化成(株)の技術委員は、加藤吉昭氏の退社により、工場長藤田治道氏に変更となりました。

### 2. J I S K 5400（塗料一般試験方法）の大改正に伴った路面標示用塗料の J I S 見直しは、その後も月1～2回の公的会議、打合せや当協会内部の会議などで検討が続いており、いわば第4コーナーに入っています。

今回の最大課題である夜間視認性と滑り摩擦性に関しては、新しい実験やいろいろな意見にもとづく討議を重ねてきたものの、ガラスビーズを散布する実際施工の塗膜性能の前段として、塗料自身について、それら直接の性能を明快に規格化することには無理があることになり、ガラスビーズの含有量と質の確認で視認性を代用する方向にあります。

なお、J I S 検討については、(株)日本塗料工業会と当協会が実質共同の事務局となっており、技術関係者ともども相当な時間負担のもと完了化へ努力中ですので、なお内外のご支援のほどお願いいたします。

### 3. 業務委員会活動である需要調査は、諸般の関係で、今回は例年より1ヵ月遅れが避けられず、1月にまとめることができませんでした。調査という仕事は、詰めれば詰めるほど難しい性格のものであることが痛感されます。

### 4. 技術委員会が12月には初めて広島で行われましたが出席も多く、地方開催も変化があって新鮮な感じがしました。

## 余 滴

中東湾岸戦争が遂に起ってしまったので、折角、会長、副会長、客員からご執筆いただいた原稿も、発行日の関係から内容として差替えすべき点があったりして、結局、会報の発行が計画よりも遅れたことになりました。

また、この湾岸戦争の影響で、本当にこれからの経済動向がどうなるのか心配なことです。企業によっては、安全上の問題からも暫らく海外出張を控えるところが既に出ているくらいです。よほど色々なケースを考えての判断と行動を以てせねば経営の基盤に大きく響くわけで、やはり一日も早く和平の接点が得られる場面にならないのでしょうか。

ところで、賛助会員プロフィールには、今回、新社名設立会社と略式社名 C I 設定の2社に先発していただきました。以降よろしく続かれますようお願い申し上げます。 (I)